

# 施策評価管理シート

施策体系	政策	4	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち	2023(令和5)年6月作成	
	基本施策	1	生きる力を育む教育の推進	担当部局(室)名	部局長名
	施策	1	学校教育	教育委員会事務局	鷲阪 文宣

## 1. 施策の基本方針(目指す将来像)



○ 夢をはぐくみ、心豊かで元氣な「ばりっ子」の育成を目指して、教育内容の充実を図るとともに、安全で快適な教育環境を整備します。  
 ○ 小学校教育から中学校教育への円滑な接続等、義務教育9年間を通じて児童生徒の発達に合った学びを実現するため、小中一貫教育の取組を推進します。  
 ○ 学校、家庭、地域、関係機関等、市総ぐるみで子どもの育ちを支援し、コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、「地域とともにある学校づくり」の実現を目指します。  
 ○ 特別な支援が必要な子どもが、その能力や可能性を最大限に伸ばす教育を推進するとともに、保護者や関係機関と連携して、途切れない支援に取り組みます。  
 ○ 持続発展可能な社会の実現のため、E S Dの視点を取り入れた、環境教育、国際理解教育、情報教育等の充実を図るとともに、家庭、地域と連携して特色ある学校づくりに取り組みます。

## 2. 令和4年度の取組内容及びその成果



・G I G Aスクール構想による学習用タブレット端末を授業の中で効果的に活用できるよう、学習支援アプリケーションの運用と利活用の教職員向け研修の充実、教職員が作成した教材や資料の電子による共有化を進めました。学校における教育の情報化の実態等に関する調査では、調査対象の教員が授業にICTを活用して指導する能力は、全国に比べ高い水準となりました。  
 ・学校DX推進のため、市G I G Aスクールアドバイザーが学校を巡回し、令和の日本型教育の構築と校務活用の効率化に向けた助言や支援を行い、学校と家庭のデジタル連絡ツールの試験導入が開始できました。また、タブレット活用体験を含めた「学校DX推進シンポジウム」を開催し、学校関係者や地域代表者等の市民にも参加いただき、現在の学校教育のICT環境や活用実態について説明しました。  
 ・名張市特別支援教育システムに基づき、校内支援力の強化を図るため、チーフコーディネーター、教育センター教育専門員、特別支援教育スーパーバイザー等による学校巡回を実施しました。必要に応じて、2次支援、3次支援につなげ、各機関と連携を図りながら支援を進めることができました。また、途切れない支援をしていくために、通常学級において特別な支援の必要な児童生徒の個別の支援計画を作成し活用していくことができました。  
 ・小中一貫教育については、各中学校区が主体となって取組を進め、中学校区の担当者会議には指導主事が参加し、指導・助言を行い支援するとともに、各中学校区における進捗状況や年間の取組を確認しました。また、令和4年度からは、小中一貫教育をさらに推進・充実させるために、8月に中学校区ごとに全教職員が参加しての「小中一貫教育推進研修会」を開催し、子どもの実態や課題、めざす子ども像を共有する中で取組方針等を確認しました。  
 ・コミュニティ・スクールについては、学校運営協議会の運営の活性化に向けて、教育委員会事務局職員が伴走支援を行うとともに、関係部署との連携を図りました。また、小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会では、講師に山口県地域連携教育エキスパートを招へいし、これからの学校と地域の在り方について講演いただきました。加えて、今後のコミュニティ・スクールを更に推進・充実させていくために必要な協議を行いました。令和4年度は、箕曲小学校学校運営協議会と箕曲地域づくり委員会が一体となって行った地域学校協働活動等の取組が評価され、文部科学大臣賞を受賞しました。  
 ・市内全ての公立私立幼稚園・保育所(園)・認定こども園に元小学校教員である「ピカ1先生」と幼児教育アドバイザーが年間4回巡回しました。また、「しっかりとつなぐ育ちのバトンカリキュラム」に基づく保育実践を広めるとともに、幼(園)児の小学校入学に対する期待感と安心感を高めることができました。  
 ・主にトイレ洋式率の低い小学校で低学年が利用する棟のトイレ等について、小中学校12校でトイレ改修工事を実施しました。また、小中学校全校のトイレの手洗いを自動水栓に取替え、児童生徒の衛生環境の向上を図りました。  
 ・令和9年度中の中学校給食実施に向け、基本構想を作成し、令和5年度に実施する民間活力等導入可能性調査の事業者選定を行いました。

## 3. 施策指標(目標)の達成状況



施策指標(目標)の内容(単位)		基準値(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	達成率
小中学校の教育環境に満足している市民の割合(%)	目標	-	-	-	-	-	70.0	
	成果	62.4	62.8	66.8	69.3	67.1	67.0	60.5%
不登校児童生徒の家庭に対して、学校内外の専門家、関係機関との連携ができている割合(%)	目標	-	-	-	-	-	80.0	
	成果	64.4	72.4	75.8	76.3	66.3	82.2	100.0%
通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別的教育計画を保護者の同意のもとに作成している割合【小学校】(%)	目標	-	-	-	-	-	70.0	
	成果	25.0	55.1	72.7	77.5	86.1	83.4	100.0%
通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別的教育計画を保護者の同意のもとに作成している割合【中学校】(%)	目標	-	-	-	-	-	50.0	
	成果	2.3	8.4	29.9	21.9	25.0	48.4	96.6%

#### 4. 成果や施策指標の状況を踏まえた課題や現状の分析



- ・GIGAスクール構想による学習用タブレット端末をより効果的に活用し、児童生徒の情報活用能力の育成や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を更に目指す必要があります。また、学校ICT環境を活用した教育の質の向上と教職員の働き方改革の推進を目指し、学校DXを一層進める必要があります。
- ・不登校児童生徒の家庭に対して、学校内外の専門家、関係機関との連携ができてきている割合は、令和4年度において目標値を上回りました。これは、市や県のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教育相談員の配置時間等が増加していることや、専門家等によるアウトリーチ型の支援も年々充実し、学校との連携の強化が一層進んだことが考えられます。不登校児童生徒は全国的にも年々増加傾向にあり、引き続き連携を図っていく必要があります。
- ・名張市特別支援教育システムを有効に活用するとともに、個別の指導計画や個別の教育支援計画を活用して支援を進めている事例は増加しています。通常学級においても、特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増えている中、今後も保護者と連携しながら、継続した取組が必要です。
- ・各中学校区における児童生徒の実態や保護者・地域の願いを踏まえた取組となるよう、全教職員が中学校区グランドデザイン等に基づき、9年間の義務教育を見据えた系統性・連続性を確保した一貫した指導を引き続き充実させていく必要があります。
- ・学校運営協議会での熟議が更に活発に行われるようになり、学校教育目標や目指す子ども像の実現に向けた保護者・地域との連携・協働が進むことが必要です。そのために、研修会等を通じて熟議の在り方を学ぶ機会を設け、地域の特色を生かした取組が行われるように学校に働き掛けるなど、コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動の推進・充実に向けて更なる支援を行っていく必要があります。
- ・「ピカ1先生」4名と幼児教育アドバイザー2名が巡回する中で就学前に保育実践を広めるとともに、就学後の学校現場でも教職員がその実践を意識し、さらに生かし、伸ばすことができるように取組を深める必要があります。
- ・安心安全な教育環境を維持していくため、計画的な施設改修を行っていく必要があります。特に、学校トイレの洋式化については、喫緊の課題として、引き続き、令和6年度に児童生徒が利用する校舎内トイレの洋式化率100%を目指して整備を進める必要があります。
- ・生徒の心身の健全な発達のため、令和9年度中を目途とした中学校給食実施に向けて、関係機関と連携し、計画的に取り組む必要があります。

#### 5. 分析結果を踏まえた新総合計画推進に向けた施策の取組内容（令和5年度以降）



- ・GIGAスクール構想による学習用タブレット端末を、授業だけでなく行事や家庭学習、学びの機会の提供等に効果的に有効活用するなど、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、引き続き教職員の研修を進めます。
- ・令和の日本型教育の構築を目指し、学校DXの具体的なプランニングや推進のために、名張市GIGAスクールアドバイザーを引き続き市内全ての小中学校に派遣します。
- ・不登校児童生徒の家庭に対してより有効な支援を行うため、名張市地域福祉教育総合支援ネットワークエリアディレクター及び市や県のスクールソーシャルワーカー等が、積極的に学校訪問を行い、家庭のニーズに応じた関係機関等との接続を図ります。また、学校における児童生徒の居場所づくりや絆づくり、関係づくり等をはじめ、「学びに向かう集団」「学び合う集団」づくりのために、学級満足度調査（Q-U調査）の活用や、児童生徒が様々なストレスからしなやかに回復する力を高める取組（レジリエンス教育）を進めます。
- ・特別な教育的支援を必要とする児童生徒の増加の実態から、教職員が特別支援教育について学ぶ必要性が増えています。障がいのある子どもの教育的ニーズを的確に把握し、途切れのない支援をしていくために、引き続き、研修会の充実を図ります。また、事例検討会を通して教員のスキルアップを図るとともに、関係諸機関と連携した取組を進めていきます。さらに、保護者と連携しながら、個別の指導計画を有効活用し、支援の充実を図っていきます。
- ・小中一貫教育については、引き続き、指導主事が中学校区（学校）で行われる会議等で指導・助言を行い、各中学校区における取組を支援するとともに、全教職員の共通理解に基づいた取組を充実させるため、各中学校区別に研修会を開催します。令和5年度は、市指定学校教育研究推進校として、桔梗が丘中学校と桔梗が丘小学校の研究成果発表会を市内の全小中学校教職員の研修の場とします。また、市として小中一貫教育の基本的な推進方針を示していきます。
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向け、教育委員会事務局として活動推進のために、学校からの相談に応じたり、地域への働き掛けを丁寧に行ったりするなど実践を踏まえて支援していきます。
- ・現行の「ピカ1学級」の取組を通じ、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を見据えた教育・保育を更に進めていきます。引き続き、入学後の小学校巡回訪問の実施や「ピカ1学級」の取組の充実を図ります。
- ・自らの人権を大切に他人を思いやる心の育成や、人との出会いを通じて自尊感情の高まりを促す取組等、全教育活動を通じた取組の推進を図ります。また、学校・家庭・地域社会が一体となった人権教育の総合的な取組を行い、地域全体で人権意識を培い人権尊重の精神を高め、子どもたち一人ひとりを大切に教育の充実を図ります。
- ・平和教育を推進するために、外部講師の招へいや地域資源を活用するなど、ふるさと学習「なばり学」での取組を充実します。また、学習した内容を校内外に発信し、平和の大切さを広めていきます。さらに、これまでの戦争の悲惨さを学ぶことで、平和な世の中を作っていくためには「自分はどういうことができるか」などを考え、自分事としてとらえることができるよう主体的な学びを進めていきます。
- ・多くの学校施設は経年経過により老朽化が進んでいることから、計画的に施設整備に取り組んでいきます。また、計画通りに児童生徒の利用する学校校舎のトイレ洋式化を進めていきます。
- ・令和9年度中を目途とした中学校給食実施に向けて民間活力等導入可能性調査を実施し、実施方式及び事業手法を決定し、中学校給食実施に係る基本計画を策定します。

## 施策を構成する主な事務事業

\*R4決算額が事業費1,000千円以上の事務事業を掲載しています（施設等維持管理、内部管理事務の事業を除きます）。

単位：千円

会計	事務事業名	部局名	室名	令和4年度内容	R4決算額	うち一般財源
一般	奨学金支給事業 (補助金含む)	教育委員会事務局	教育総務室	経済的な理由により就学が困難な高等学校・高等専門学校の学生、大学生を対象に奨学金の支給又は貸付を行いました。 ・支給奨学金 新規15人、継続21人 ・貸付奨学金 継続3人	2,357	227
一般	スクールバス等運行事業	教育委員会事務局	教育総務室	小学校の統廃合により、統合先の小学校へ通学することになった児童の通学手段の確保のため、スクールバス及びスクールタクシーを運行しました。また、スクールバスは通学運行以外の時間帯を、市の事業等で活用しました。 ・錦生赤目小学校 ・比奈知小学校 ・つつじが丘小学校 ・市事業等利用 69回	16,656	16,480
一般	小学校屋上防水改修事業	教育委員会事務局	教育総務室	老朽化が著しい桔梗が丘南小学校低学年棟屋上防水の全面改修を行いました。	16,009	4,009
一般	小学校給食用昇降機改修事業	教育委員会事務局	教育総務室	老朽化している桔梗が丘南小学校給食運搬用昇降機の改修を行いました。	3,256	856
一般	小学校トイレ改修事業	教育委員会事務局	教育総務室	児童の教育環境の向上及び防災機能強化を目的として、トイレ改修を行いました。 ・トイレの乾式化・洋式化の実施（美旗、桔梗が丘南の2校） ・トイレ洋式化率の低い小学校の一部洋式化の実施（蔵持、薦原、箕曲、錦生赤目、桔梗が丘東、すずらん台、梅が丘、百合が丘の8校） ・校舎の児童用トイレ洋式化及び多目的トイレ整備に係る設計業務の実施（桔梗が丘南、桔梗が丘東、すずらん台、百合が丘の4校） ・美旗小学校屋外トイレ改修の実施（美旗小学校150周年記念事業寄附）	43,583	155
一般	小学校大規模改良事業	教育委員会事務局	教育総務室	（令和3年度繰越分） 箕曲小学校の校内照明設備のLED化及び職員室・校長室の空調設備の更新を行いました。	28,028	1,570
一般	遠距離通学費補助金（小学校）	教育委員会事務局	教育総務室	名張市立小学校へ遠距離通学する児童及び特別支援学級に在籍する児童の保護者に対し、交通機関（バス）並びに自動車による通学費の一部を補助しました。 ・対象者 154人	1,607	107
一般	小学校教育振興費（扶助費分）	教育委員会事務局	教育総務室	経済的理由で就学困難又は特別支援学級に就学する児童のうち、世帯の所得が生活保護基準の2.5倍以内の保護者に対し、学用品、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、通学費、学校給食費及びオンライン学習通信費を支給しました。 ・就学援助対象者 388人 33,342千円 ・特別支援教育就学奨励費対象者 186人 7,297千円	40,638	36,968
一般	遠距離通学費補助金（中学校）	教育委員会事務局	教育総務室	名張市立中学校へ遠距離通学（通学距離が片道概ね4km以上を基本）する生徒の保護者に対し、通学費の一部を補助しました。 ・対象者 397人	9,465	3,465
一般	中学校教育振興費（扶助費分）	教育委員会事務局	教育総務室	経済的理由で就学困難又は特別支援学級に就学する生徒のうち、世帯の所得が生活保護基準の2.5倍以内の保護者に対し、学用品、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、通学費、オンライン学習通信費を支給しました。 ・就学援助対象者 259人 17,074千円 ・特別支援教育就学奨励費対象者 75人 2,682千円	19,755	18,406
一般	中学校大規模改良事業	教育委員会事務局	教育総務室	（令和3年度繰越分） 令和5年度に工事を実施する南中学校屋内運動場長寿命化改修の設計等を行いました。	6,172	172

## 施策を構成する主な事務事業

\*R4決算額が事業費1,000千円以上の事務事業を掲載しています（施設等維持管理、内部管理事務の事業を除きます）。

単位：千円

会計	事務事業名	部局名	室名	令和4年度内容	R4決算額	うち一般財源
一般	中学校トイレ改修事業	教育委員会事務局	教育総務室	生徒の教育環境の向上及び防災機能強化を目的として、トイレ改修を行いました。 ・トイレ洋式化率の低い中学校の一部洋式化の実施（北中、南中の2校） ・校舎の生徒用トイレ洋式化及び多目的トイレ整備に係る設計業務の実施（北中、南中の2校）	6,516	5
一般	学校における外国人児童生徒サポート事業	教育委員会事務局	学校教育室	日本語指導が必要な外国人児童生徒が、日本語を用いて学校生活を営むことができるようにするとともに、学習に取り組むことができるよう支援しました。 ・日本語指導員（3人）、生活学習指導員（2人）による学校巡回（9校）	1,419	1,419
一般	生徒指導充実推進事業	教育委員会事務局	学校教育室	学級満足度調査（Q-U調査）等を活用した、学級集団や学年・学校の集団づくりを通して、いじめや不登校が生まれない望ましい人間関係づくりの取組を進めました。 ・教育相談担当者会の開催（2回） ・生徒指導推進委員会の開催（6回） ・Q-U調査の実施（2回）、Q-U調査活用に係る研修会への指導主事派遣による指導・助言（7回） ・各校への指導主事派遣による指導・助言（19校）	1,340	1,340
一般	コミュニティ・スクール推進事業	教育委員会事務局	学校教育室	学校運営協議会の運営の活性化に向けて、教育委員会事務局職員が伴走支援を行うとともに、関係部署との連携を図りました。また、小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会では、講師にエキスパートを招き、これからの学校と地域の在り方について講演していただきました。加えて、今後のコミュニティ・スクールを更に推進・充実させていくために必要な協議を行いました。	1,543	1,434
一般	小学校ALT派遣事業	教育委員会事務局	学校教育室	市内14小学校専属の外国語指導助手を3人配置し、外国語科・外国語活動の時間にネイティブスピーカーと接することで、コミュニケーション能力の育成及び国際理解教育、外国語活動の充実を図りました。	13,563	13,563
一般	中学校ALT派遣事業	教育委員会事務局	学校教育室	市内5中学校にJETプログラムによる外国語指導助手を派遣するとともに、小・中学校の円滑な学習の接続を目指し、小学校の外国語活動の支援も行いました。さらに、幼児期からのコミュニケーション力育成のために、幼稚園等にも支援を行いました。	8,877	8,847
一般	教育研究事業	教育委員会事務局	教育センター	教育センターの「子どもの育ち・学びへの支援」「教育に関する調査・研究」「教職員への支援」「学校と地域や家庭との連携への支援」「教育情報・資料の収集・提供」の五つの機能に基づく事業を行いました。 ・教育相談事業（相談延べ444件） ・研修講座、家庭教育講座等の実施（満足度94.1%） ・適応指導教室の運営 ・週末教育事業（17講座実施） ・発達支援教室（ぱりっ子チャレンジ教室・ぱりっ子わくわく日帰りキャンプ実施） ・学校支援ボランティア推進事業 ・学校教育支援員事業 137回 ・なばり学ゲストティーチャー事業等（親子で学ぼう「なばり学」教室3講座実施）	3,456	956